

頑張っている行政区紹介

地域で支え合い、交流をつくる

コーリーナ板行政区

今回は、「地域住民の交流を図る活発な活動が行われている」と情報寄せられたコーリーナ板行政区を、ご紹介いたします。コーリーナ板行政区長兼自治会長の井上泰正さんと公民館長の中島昌枝さんにお話を聞きました。



●行政区の特徴は

平成元年に新興住宅地として分譲が開始され、翌年にコーリーナ板行政区が誕生しました。人口六百九十八人、世帯数三百十八世帯、子育て世帯が多く、他地域よりも高齢者と子どもの割合が高い傾向にあります。

自然豊かな環境に恵まれ、別荘地としての利用も多く、行政区・自治会・管理組合それぞれが、協力し合いながら地域住民が暮らしやすいように取り組みを行っています。

●管理組合の役割は
当初は、下水道処理施設の管理が大きな役割

割でしたが、その後、施設が市に移管されたため、現在はテレビ共同視聴用施設の管理や遊歩道の整備などをメインに行っています。自治会と管理組合の連携強化と効率改善のために、一体化も視野に入れて話し合いを進めているところです。

●公民館の活動は

県外から移住した住民が多く、家の間隔が少し離れているため、近隣同士で気軽に交流をしにくい環境にあります。そのため、自治会公民館を「集いの場」とし、住民たちが気軽に交流できるように週五日以上のペースで活動しています。カラオケなどの人気教室は他の行政区からの参加者もいるほどです。コーリーナは新しく入ってきた方をあたたかく受け入れる方ばかりなので、こういうことがあるのかもしれないですね。

また、行政区が広く、公民館までの距離が遠いので、同じサークルの人同士や近隣で声を掛け合って乗り合いで公民館まで来てくれたり、民生委員さんが足の不自由な人たちが三人を車に乗せて連れて来てくれたりしています。

さらに、高齢者の孤食を減らすために、きらきらサロンの日に、当日集まった人で食事を作り、みんなで楽しく食べる機会を設けています。コーリーナでは、地域内で支え合う関係が築かれていると感じています。

●今後の課題は

行政区内の新しい方や他の地域からも家族で気軽に参加してもらいたいと考えています。まずは、さらに活動が活発になるよう

にサークルの発表会や、市や社協の方を講師に依頼の指導や介護・保険の話をしてもらう機会などを作りたいと考えています。

(S・M)



神輿を担いで 伝統行事を継承する

安沢行政区

安沢地区は、従来、安沢の東・上・中・下と山根坪、本田坪の六行政区に分かれていましたが、四月から一行政区に統合されました。新しい安沢行政区について、渡辺賢司区長に状況をお聞きしました。

●統合した理由は

安沢地区には、古くから受け継いでいる行事があります。数年前までは、六地区（旧行政区）が毎年持ち回りでその行事を担当していましたが、高齢化などで行事開催の必要人員が集まらず、行事の開催ができない地区が出てきました。そこで、安沢地区を一本にまとめ、行事の時には、各地区から二、三人に出てもらおうことを継承しています。

とで人数確保し、行事を再開することができるようになったことから、行政区として一つに統合することにしました。

では、各地区二人の委員からなるプロジェクト・チームを編成し、検討を続け、区民の八十パーセントの賛同を得て、今年四月に統合が決定しました。

●どんな行事がありますか

二月に神社のお祭り、七月に天王祭、十月に収穫祭、ふるさと祭りなどを継承しています。特に天王祭には力を入れており、こども神輿と大人神輿を担いで、八坂神社から公民館の往復約二キロメートルを練り歩きます。他地域では神輿の担ぎ手不足のため、トラックに載せているようですが、当区では人手で担ぐことを継承しています。

もちろん、各行事には、婦人部の方が賄いを担当してくれています。さらに、公民館では区民のボランティアにより土日



に子どもたちに習字を教えています。最近では行儀作法も教えるようになりました。ほぼ毎日、長寿会・婦人会、後継者会などのグループが公民館を利用しており、コミュニケーションを図り、絆を大切にすることが伝統を守ることにつながっています。

●ごみ焼却場が区内に建設されますが

生活するにはこの焼却場は必要不可欠な施設です。建設にあたっては、主管の塩谷広域行政組合に確認したところ、最新のシステムで建設するので、人体に影響するようなことがない安全な施設だと聞いています。この処理場建設に付帯して、区内の道路が整備されることを期待しています。

入浴設備やリハビリ施設も併設されることなので、区民のみならず、矢板市民の憩いの場が増えることになりそうです。

(T・M)